

■ 待ちわびる「春」 ■

今年の裏磐梯は例年になく雪の少ない冬でしたが、皆さんのところはいかがだったでしょうか？日本では冬型の気圧配置が長続きしなかったことはエルニーニョ現象が影響したとみられています。天気予報などで「三寒四温」という言葉を聞いたことがあるかと思いますが、冬季に寒い日が三日ほど続くとそのあと四日ほど温暖な日が続く気候がだんだん暖かくなるという意味に用いられます。日本では規則正しい現象は現れにくく、冬から早春にかけて単に寒暖を繰り返す陽気をさすことが多いようです。

昨年は3月中旬に大雪となり、裏磐梯ビジターセンターでは3月14日に最大積雪238cmを記録しました。正岡子規の俳句に「毎年よ彼岸の入りに寒いのは」の句がありますように寒の戻りもあるかもしれません。



冬が暖かかった今年は、花粉もすでに飛びはじめ、偏西風に乗って黄砂やPM2.5も飛来しています。春になるのはうれしいけれど、ちょっぴり憂鬱な季節でもありますね。

また、少雪の影響で水不足などにならない穏やかな春になるといいですね。

■ こんなの見なかった？ ■

裏磐梯でよく見かける不思議なもの…さて、なんででしょう？

森の中を歩いていると、時々、幹にたくさんの穴があいている木に出会うことがあります。この穴は、どうしてあいたのでしょうか？ 次のどれだと思いますか。

- ① 昆虫が樹液を吸うためにあけた
- ② 人間が樹液を取るためにあけた
- ③ キツツキの仲間が木の中の虫を取ったり、巣を作ったりするためにあけた
- ④ クマが木登りをした時、ツメであけた
- ⑤ 木が病気にかかり、穴があいた



正解は、③のキツツキの仲間です。

キツツキの仲間（裏磐梯ではアカゲラ、アオゲラ、コゲラなどがいます。）が、くちばしで木をついて上手に穴をあけられるのは、いくつかの秘密があります。まずは足の指が、他の鳥たちと違い、前2本と後ろ2本になっていて幹にたてにしっかりつかまれるからです。それに、しっぽの羽根がとても強くしなやかで、先端を支点に板バネのような振動で高速でつつくことができるから、などがあるようです。



写真はアカゲラですが、その様子が少しわかるでしょうか。英語でウッドペッカー（森の木つつき屋）と呼ばれるキツツキの仲間を、皆さんも双眼鏡を持って観察してみてください。